

(株)大垣村田製作所

大垣市・製造

平成28年度
認定

各階層・各部門から成る「いきいき委員会」を設置して、WLBに向けた組織風土改革に取り組む。育児や介護休業など多くの制度が法を上回って施行され、休暇を取得しやすい雰囲気にある。

従業員数／男性112名 女性19名 計131名 ※平成29年3月現在



「いきいき委員会」は社内新聞を発行するほか、従業員の満足度向上に向けて様々なイベントを企画。

家族を大切に する社風が根付く

約100社のグループ会社内で2番目に従業員数が少ない大垣村田製作所は、全社がつながるインターネット上で積極的に社内報を掲載し、その家庭的な雰囲気発信、グループ内で存在感を示している。また全部門の各階層が集まる

員の満足度向上やWLBに取り組む。その結果、所定外労働時間は2011年の23.3時間から、2015年には月6.9時間と大幅に改善。有給休暇でも、地域貢献活動や家族の看病、育児などを目的に取得できる「多目的特別有給休暇制度」が設けられ、休暇が取得しやすい環境が整う。

特に育児休業は、女性の取得率100%。男性も過去3年で6名の取得実績がある。「育児休業後に復帰する人が周りにおり、辞めるといふ選択肢はなかった」という事務課の伊東良恵さんは、復職後9時～15時半の短時間勤務で働く。

介護休業も、上限279日を3回まで分割取得が可能と手厚い。事務課の針山啓司さんは「まだ利用者はいないが、介護は今後増えてくる課題。長年勤めた人がキャリアを諦めることがないように、一緒に



育児休業を取得した製造一課シニアマネージャーの原田英幸さんは「前例もあり、休むのが当たり前の風土がある」と話し、部下にも取得を促す。

乗り越えたい」と話す。

さらに2014年からは、初めて総合職女性を採用し、女性の活躍や職場復帰にも力を注ぐ。育児休業から復職した社員にも、総合職転換試験へのチャレンジを促し、女性管理職の配置にも積極的に取り組む姿勢だ。